

デリー・ジーザス・ニュース #227

イエスのエルサレムへの最後の旅 イエスの祈り しつこい未亡人のたとえ話 ルカ18.1-8

1 それからイエスは弟子たちにたとえ話をし、常に祈り続けなければならないこと、そして落胆して決して諦めてはならないことを示しました。

2 彼は言いました。 「ある町に、神を畏れず、人々が自分についてどう思っているかなど気にも留めない裁判官がいました。 3 その町に、ひとりの未亡人がいて、イエスのもとに何度も来て、切実に嘆願した。 「お願いです。私を敵対する者に対して、正当な裁きを与えてください。」

4 「しばらくの間、彼は彼女を拒否した。しかし、ついに彼は心の中で言った。『神を恐れず、人の考えを気にしないとしても、 5 しかし、この未亡人は私を悩ませ続けるので、私は彼女が正当な罰を受けられるようにして、彼女のしつこい執拗さで私が疲れ果てないようにするつもりです！』

6 そこで主は言われた、 「不正な裁判官の言うことによく注意するようにと命じる。

7 神は、昼も夜も神に叫び求める選ばれた者たちのために、正義を果たされないであろうか。神は彼らを拒絶し続けるであろうか。断言します。彼は彼らに正義がもたらされるよう、速やかに尽力するでしょう。

」しかし、人の子が来るとき、地上に信仰が見出されるでしょうか。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**赤いイタリック体**は**イエスの言葉を示します**。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	エルサレムへの道のどこか
タイムライン	3月 (38月)
イエスの生涯の文脈	第7段階: ペレアにおけるイエスの宣教
	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	5. イエスの祈り しつこい未亡人のたとえ話

コメント:

デイリー・ジーザス・ニュース #227

今日の朗読の中で、イエスは祈りの生活における粘り強さの重要な役割を改めて強調されました。イエスは6ヶ月前にも別のたとえ話で同じ教訓を説かれました (DJN #175; ルカ11:5-13)。イエスは両方のたとえ話を通して、私たちの祈りの実践におけるブルドッグのような粘り強さと粘り強さを強めることを意図されました。

今日の聖書箇所では、裁判官の態度は神とは正反対でした。裁判官は未亡人の願いを聞き入れるつもりはありませんでした。一方、神はすでに私たちの祈りに応えて、私たちの必要を満たすことを決めておられます。神は、私たちが願いを粘り強く求めることよりも、私たちの祈りに答えることにはるかに熱心に取り組んでおられます。

イエスが言いたいのは、もし粘り強さによって、私たちの願いを聞き入れる意志のない邪悪な裁判官から答えを勝ち取ることができるのであれば、私たちのあらゆる願いに答えるために文字通り (イエスにおいて) 死んでくださった神に、どれほど粘り強く願い求めるべきかということです。私たちの祈りに答えてくださる神の慈悲と計画は、私たちが粘り強く祈ることを当然のこととしています。

ルカは冒頭でイエスの中心的な論点を強調することで物語を展開しました。イエスはこの教えの中で、祈りにおける粘り強さの重要性を強調するために、いくつかの点を強調しました。イエスは動詞の時制を用いて、女性が、必要な答えを得るまで決して諦めないという強い決意によって、裁判官の抵抗を継続的に、そして着実に弱めていった様子を描写しました。

それから、イエスは、裁判官に対する未亡人の願いを命令形で表現することを選択しました。それは文字通り、「私はあなたに命じます、私を助けてください!」という意味です。これは、彼女の必要性の緊急性と、彼女の決意の情熱的な炎を示しています。

最後に、イエスは教えを締めくくる修辭的な問いを付け加えました。「しかし、人の子が来るとき、地上に信仰を見いだすでしょうか?」祈りの人であるイエスにとって、神への信仰は祈りの粘り強さと本質的に結びついていました。もし私たちがイエスを神の本質の究極の啓示として信じるなら、イエスが祈りに答え、イエスを信じる人々の粘り強い祈りを通して、この地上で御心を成就することを選んだことも信じなければなりません。

祈りにおける粘り強さは、イエスの生涯の模範でした。誕生前から、地上での生涯と宣教活動を通して、そして私たちのために常に執り成してくださる天の永遠の大祭司としての働きを通して、イエスは生涯を費やしました。十字架の旅路において、イエスは素晴らしい祈りの粘り強さを示されました。

祈りはイエスと同義である以上、私たち一人ひとりをイエスの弟子として特徴づけるものでなければなりません。それ以外に方法はありません。

応用：

イエスが念頭においておられた祈りの粘り強さには、二つの側面があります。一つ目は、祈りを生活様式として実践、あるいは鍛錬し続けることです。過去にどれほど祈りが不規則だったとしても、今日も明日も祈

デイリー・ジーザス・ニュース #227

ることを諦めてはなりません。イエスが言われたように、私たちは祈りの生活を決して諦めてはなりません。

粘り強さの二つ目の側面は、私たちの願いをはっきりと伝えることです。私たちは具体的な願いを神の前に持ち続け、必ず与えられる答えを受けるまで諦めてはいけません。

粘り強さの欠如とは、神の答えを得る前に願いを諦めてしまうことです。忠実とは、神の答えが来るまで待ち続けることです。これはしばしば「祈り通す」と呼ばれます。

粘り強さの両方の側面は、イエスの祈りの教えにおいて不可欠です。

彼らとはどうですか？

今日、祈り続ける決意をどこでさらに強める必要があるでしょうか。